

令和2年度

新潟県病害虫発生予察速報第2号

(トマト灰色かび病の防除について)

トマト灰色かび病の発生が平年より早め、多めとなっています。
各ほ場での発生状況に留意し、適切に防除してください。

1 本年の発生状況（4月24日現在）

- (1) 施設栽培（冬春作型）におけるトマト灰色かび病の発生は例年より早まっている。
4月後半での発生量は、県巡回調査の新潟市北区豊栄地区で葉と果実で平年より多く、葉における発病度は10.8で過去10か年で最も多い（表1）。

表1 トマト灰色かび病の発病状況（定点調査ほ5地点・葉の発病度）

調査時期	調査年次										本年
	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	
3月後半	1.0	0.6	0.3	0.0	1.4	0.6	0.5	0.0	1.0	0.0	3.0
4月前半	2.3	2.4	1.0	0.2	1.2	2.7	1.6	0.3	1.3	0.2	3.2
4月後半	8.0	6.8	2.2	1.8	1.7	7.7	2.5	0.8	4.0	0.2	10.8
5月前半	7.7	8.0	2.0	9.0	3.0	3.3	5.3	1.6	4.0	5.0	
5月後半	10.3	11.3	2.8	4.0	6.0	4.7	4.2	3.4	8.2	2.8	
6月前半	10.5	20.0	6.0	4.8	4.3	4.5	4.2	5.0	10.0	3.2	
6月後半	8.0	14.0	9.0	10.0	9.7	1.6	4.7	7.0	9.2	8.6	

- また、NOSA I新潟県の調査でも、新潟市南区白根地区で平年比やや多く、新潟市北区（豊栄地区を除く）・東区・江南区では平年並で、産地全体では場間差が大きくなっている。
(2) 各地区とも発病の見えるハウスでは、上位葉に発生したチップバーンや果頂部またはへたの部分に灰色のカビが発生している。
(3) 今までのハウスの湿度管理の違いにより、ほ場間での発病差が生じている。

2 今後の気象経過

- (1) 新潟地方気象台4月23日発表の1か月予報（予報期間4月25日から5月24日まで）では、1週目（4月25日（土）～5月1日（金））の気温は平年より低い確率が60%で、感染に好適な条件がしばらく続くと予想される。

3 今後の対応と注意点

(1) 耕種的防除

ア 灰色かび病は15～23℃と比較的低温で、湿度90%以上の多湿条件のときに多発生しやすいので、換気によりハウス内の温度及び湿度を適正管理する。サイドを閉める夜間は、循環扇を稼働し、ハウス内の空気を循環させ、植物体表面の結露を除去する。

サイド換気は、開ける時間を早くしたり、閉める時間を遅くしたりして、結露の発生を緩和させる。また、灌水は晴天日に行う等、湿度の抑制に努める。

イ 発病果実・葉、チップバーン、花びら等は伝染源となるため、すみやかに除去し、ハウス外に持ち出して適切に処分する。

(2) 化学的防除

ア 病勢が進行すると防除困難となるため、早期発見・早期防除に努める。

イ 薬剤耐性菌の出現を防ぐため、同じ作用機構をもつ薬剤の連続使用は避けて、作用機構の異なる薬剤をローテーション散布する。

また、最新の農薬登録状況を確認し、農薬使用基準を遵守する。

(3) その他

トマト以外の作物でも、灰色かび病の発生に注意が必要である。

ア (1) アに準じて、天候に応じたこまめな換気による温度・湿度管理を徹底する。

イ 発病を確認したら、(1) イ及び(2)に準じてすみやかに防除する。